

一 般 質 問

市政全般の課題や問題をただす一般質問は、12月7日、10日、11日に行われ、14人の議員が75項目に及ぶ質問をしました。その主なものは次のとおりです。

新中核病院に関する協和中央病院との協議について



【須藤議員】今の段階では協和中央病院との協議に進展がみられない。8月から協議を始め今までの相手方とどのくらい会っているのか。また、その協議結果を伺いたい。

【市長】交付金の活用期限もあることから、一刻も早く建設推進会議（仮称）を立ち上げ、検討することが急務であったが、関係機関との調整が遅れている。基本構想の策定に当たっては、関係機関のご意見をいただきながら、この地域に密着した医療提供体制を確立することを念頭に、慎重かつ迅速に進めてまいりたい。また協和中央病院の中原院長と一度お会いしている。協議の結果は、本市から新中核病院整備に望むものを協和中央病院に提示し、9月27日の理

事会で本市との話し合いに着くことが確認された。その後11月28日に県保健福祉部立ち会いのもと県庁にて協和中央病院との意見交換を行った。内容としては①24時間、365日、2・5次救急医療に対応すること。脳疾患、心疾患への対応の必要性は確認できたが、現在の協和中央病院の機能の拡充や新設が必要であり、スタッフの確保などの課題が挙げられた。②建設場所は、協和中央病院からは、病院と付設の施設が密接な関係にあり、離れての設置は効率性などから非常に困難との意見があった。③市民病院は新中核病院の運営とあわせて、診療所として運営していくとの意見があった。



【須藤議員】説明を受けて、協和中央病院との再編統合は難しいと思うがいかがか。
【市長】可能であろうという認識を持っている。

新中核病院について



【鈴木議員】協和中央病院との協議及び真壁医師会との話し合いはどのような見解について伺いたい。

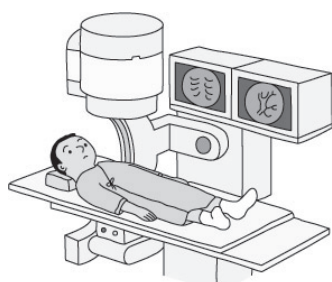
【審議監】協和中央病院には8月31日に、再編統合による新中核病院の整備ということで正式にお願いをした。また、医師会との話し合いは、9月26日に医師会の新中核病院対策委員会の方々に協議いただいた。本市からは新中核病院の整備計画と桜川市への要望書に対する回答書について、そして新たな再編統合の枠組みとして協和中央病院との協議に至る経緯を報告した。医師会からは県西総合病院と公立2病院の再編統合に戻すべきとの意見や交付金を当てにせず協議を再開すべきだという意見が出された。その後10月15日の協議では、医師会から問題点や不安点、整備案、経営形態や建設負担金などの意見が出された。その後

10月24日に医師会の新中核病院対策委員会の方々との協議で、基本構想の事前調査結果を報告し、協和中央病院との再編統合について説明した。医師会からは再編統合先への不安、許可病床数の減少が述べられ、市としてのビジョンの提示などが求められた。今後は、医師会と県に新中核病院の整備、この地域に必要な医療提供体制構築について専門的な立場で話し合いを重ねていただき、一刻も早く新中核病院の整備に取り組みるよう、今後も働きかけをお願いしてまいりたい。

協和サッカー場の維持管理について



【田中議員】協和サッカー場は、維持管理経費が削減され、今では



試合をするにも支障が出るほどのグラウンド状態である。一部の大会も会場が変更されてしまった。地元からも教育委員会に要望書が提出されている。以前は、常に青々とした芝のグラウンドでサッカーを通して、小学生や若い世代が交流し、地域が活性化していた。確かに財政健全化や行政改革は重要であるが、費用対効果の物差しだけで予算配分するのではなく、地域の特性やコミュニティのあり方にも配慮すべきではないか。地域の市民が誇れる、人の呼べる協和サッカー場が既にあるのだから、これを生かして交流人口をふやし、地域活性化のためにも、再度の見直しをお願いしたい。

【市長】協和サッカー場の今後の改修については、市民の皆様のニーズを十分に踏まえた上で、総合的に判断をしていかなければならないと考えている。

【教育次長】協和サッカー場は、平成13年に西洋芝により施工され、サッカー専用の施設として設置された。本市のサッカーの拠点として整備を図るべきものと考えている。しかし、近年の使用回数が増加等により傷みが生じ、不便をきたしている。改修については、その必要性を認識している。そのた

め、今後の使用状況や管理方法並びに厳しい財政状況を十分に踏まえた上で、施工方法を考慮して検討していきたい。



協和サッカー場

市長の次期公約について



【小島議員】市長は、先の9月定例会で2期目の政権への意欲を述べた。「変える勇氣」をキャッチフレーズにした市長にはもっと期待感があつた。そこで最重要課題とする、スピカビル問題と地域医療再生について伺いたい。第1に、2期目の公約もスピカビル売却となるのか。第2に、桜川市との公立2病院の再編計画が挫折し、協和中央病院との統合も難航する中、同時並行での次善の策、つまり市民病院再構築も検討する段階だと思ふがどう考えるか。

【市長】スピカビルについては、市民アンケートの集計・分析中の

段階であり、これまでの皆様のご意見、ご要望と、アンケート結果を参考に慎重に検討していきたい。市民病院の再生については、地域医療再生計画の中で、市民病院自体は診療所化されるもので、本市も含めて、この地域の医療環境の充実が図られることとなるので、関係機関との調整など、慎重かつ迅速に対応したい。

【小島議員】スピカビル問題については、アンケートの結果次第だという趣旨だと思う。それでは逆に、売却も3支所への移転も伴わない民間利用による駅前振興を公約とする可能性もあるということか、伺いたい。

【市長】アンケートの結果次第では、再度議員を初めとする多くの市民代表の皆様のご意見を仰ぐという場面もあろうかと思うし、新たな選択肢を決定することも可能性としては充分にあるのではないかと思っている。



スピカビル

小中学校の教育改革について



【稲川議員】学校の現場では、従来のゆとり教育が見直され、中学校で武道が必修になるなど、数々の改革や改善が行われている。そういう中で、小中学校の統廃合が現実の問題としてある。この問題は、外見からでは、単に学校施設の問題に見られがちだが、その実、小中一貫教育の問題があり、まさに教育改革である。そこで、第1に、小中一貫教育は文科省でなく、市教育委員会の権限で可能なのか。第2に、市教育委員会は、教育改革のために、小中学校の統廃合は必要と考えているか。第3に、仮に統廃合を進めるとすると、市民や保護者、教育関係者から組織する検討会議などを設置するつもりはあるのか。

【教育次長】まず第1に、小中一貫教育は市教育委員会の権限で可能である。その方法として、教育課程特例校の申請をして行うのが一般的である。第2に、教育改革のために、統廃合は必要と考える。それは、生きる力、具体的には学力をつける、豊かな心や健やかな体をつくる、そのためにも質の高

環境づくりが必要である。この環境づくりの部分で、統廃合にリンクされがちだが、教育改革は、生きる力を育成する上で全体が統廃合にかかわってくるといえる。第3に、検討会議については、統廃合が地域の理解がなければ進められないことから、保護者、地域住民の意見を汲み取りながら、設置していきいたいと考えている。



国保税、固定資産税等の延滞金について



【加茂議員】今、住民の方々の生活が非常に大変になっていて、国

保税、固定資産税等の滞納がふえている。そのような中で、延滞金に係る利息が年14・6%と高いために、多くの納税者が苦しんでいる。例えば、固定資産税の滞納額が165万円なのに、延滞金が65万円の例もある。埼玉県草加

市では、誠意ある納税者という位置づけから減免制度を設けている。本市でも、市税の延滞金の減免規定を設けていくべきだと思いがいかか。

【税務部長】草加市の例は、地方税法に規定する内容を多少加工しながら、市規則に具体的に盛り込んだものと思われる。本市でも市規則に延滞金の減免について規定しているが、より弾力的な運用と解釈ができるよう、上位法の地方税法の規定にとどめている。具体的には、災害、盗難、病氣、負傷等により生活の維持が困難と判断できる場合に対応している。減免の基準を明確にすることが収納事務の透明性の向上や効率化につながるものと考えている。

【加茂議員】やはり納税したくてもできない状況が広がっている。高い延滞金を少なくしていくことが住民の苦しい状況を解決していくことになると思う。むしろ市規



則できちんと延滞金の軽減を定めていくことが大事だと考えるがいかかか。

【税務部長】きちんとすることが透明性の確保にもつながるので、今後前向きに検討していきたい。

新中核病院に関する真壁医師会との協議について



【津田議員】真壁医師

会からの新聞折り込みでの考えに対して、執行部の考えを伺いたい。建設推進会議の委員はどのような構成で、いつ頃立ち上げるのか伺いたい。

【審議監】医師会のご指摘には同意できる。建設推進会議は基本構想や基本計画を作成する協議機関であり、委員には、再編統合する各病院に関係する関連大学病院の代表、両病院の医療や事務の代表、医師会、議会、市民の代表などを想定しているが、現段階では選定していない。

【津田議員】医師会では診療科目をある程度特化し、充実を図るべきとしているようだがどうか。

【審議監】県にお願いして専門的な立場でこの地域として求められる実現可能な病院について医師会と話し合いをしていただいている。その中から方向性が出てくるもの

だと考えている。

【津田議員】医師会では協和中央病院を現在のままで維持することが大事とのことだが。

【審議監】協和中央病院では1次から2次の診療を行っている。そういう中、協和中央病院の医療体制を拡充することにより全体として2・5次まで賄えるような病院の構築が必要であると考えている。

【津田議員】医師会との話し合いは持たれたのか。

【審議監】専門的な立場から県のほうからの働きかけ、それと、医師会が桜川市に話をするとのことであったため、11月以降は、その経過を見守り、進めていかなかった。



救急医療情報キットの配付について



【真次議員】以前の議会でも質問したが、救急医療情報キットの配付について伺いたい。わが国では

急速な少子高齢化が進んでおり、



救急医療情報キット

特に高齢者のひとり暮らしや高齢者夫婦の二人暮らしが最近多く見受けられる。そのような方々は自分が病気になる時、どのような方々かと非常に心配している。そのような方々に救急医療情報キットを配付し利用してもらおうことで、二重、三重に守られているという安心感が生まれるのではないかと。①病名、薬、保険証のコピーなどのさまざまな情報を入れたキットを冷蔵庫に入れる。②キットが冷蔵庫にあるとわかるシールを玄関に貼る。③救急隊員が駆けつけたとき、冷蔵庫のキットの情報を救急活動に利用できる。それにより生命が守られると言われており、県内でも導入する市町村がふえている。このようなキットを配付することで、安全に暮らせる筑西市にしたいと思うがいかがか。

【福祉部長】本市では安全対策として緊急通報システムを筑西広域圏内で実施している。それに加えて救急医療情報キットを配付することで、二重、三重に市民を守ることができ。消防の救急隊員の判断で冷蔵庫を開け、持病やアレルギーの情報がわかることで迅速な医療の提供体制が取れることになるので、前向きに検討してまいりたい。

新中核病院について



【三浦議員】

新中核病院としての協和中央病院との再編統合については、地元医師会から内容に問題があると指摘されている。協和中央病院との再編がだめになった場合、この地域に中核病院ができなくなってしまう。このような危険性を持つている進め方をどう考えるか。

【審議監】桜川市との交渉が難航し、選択肢のない中で協和中央病院との可能性を探ったものである。【三浦議員】行政としては、通常、事前に医療の専門家である医師会などに相談し、石橋をたたくて渡るものだ。どうしてそうしなかつ

たのがブラックボックスであり、説明責任があると考えられるかどうか。【審議監】協和中央病院との再編統合に、ある程度の方向性が出た段階で議会に報告し、それから医師会にお伝えする予定でいた。

【三浦議員】交付金の期限が迫っているため病院の内容より箱ものづくりが先になる。これでは運営形態や財政負担など、重要な問題が後回しになってしまふ。十分な議論をするためには期限の延長が必要だ。延長要望を、市長を先頭に国へ働きかける考えはあるのか。【審議監】運営形態や財政負担などの重要な問題は基本構想策定の中で十分検討してまいりたい。また、期限延長については、今後強力に進めるべきだと思っている。【三浦議員】市長はどう考えているのか。

【市長】期限延長のお願いも必要だが、やはり早期に建設実現にこぎつけることのほうがなお重要だろうと思っている。



高齢者世帯、独居老人の支援について



【大嶋議員】

日本は高齢化が進み、これまで老後のセーフティネットとして機能していた家族が、核家族化や都市化によって崩壊しつつある。最近では孤独死が大きな社会問題になっている。多くの福祉や介護の制度があつても、これらを知らない、相談に来れない方が問題である。養護老人ホームに入所していれば、孤独死をしなくて済んだケースが幾つも見受けられる。本市のことぶき荘は定員50人に対して30人前後の入所状況と聞く。入所措置が必要な高齢者はかなりいると思う。必要とする対象者に情報が届かないような気がする。このような方々への支援はどうなっているのか伺いたい。【福祉部長】相談窓口に来られない方、制度を知らない方への情報提供は、主に民生委員や在宅介護支援センター職員が個別訪問による要援護者の実態把握を行い、必要な福祉サービスの情報提供や申請代行等の支援をしているほか、介護支援専門員や介護事業者等からも利用者や訪問先等で困難事例があつた場合には、地域包括支援

センターが相談支援等を行っている。地域の身近な相談窓口としては、地域包括支援センターのほか、市内7カ所の在宅介護支援センターに24時間、365日の相談業務を委託し、体制を整備している。また、相談窓口の周知は、広報紙に掲載するほか、地域包括支援センターと在宅介護支援センターでの案内をはじめ、各支所、公民館、社会福祉協議会等にパンフレットを置いて周知に努めている。



人口減少対策について



【石島議員】 人口減少対策の取り組みとして

①未婚男女への婚活支援。②子育て支援。③まちおこしの重要性。④つくばエクスプレスの筑波山までの延長及び常総線までの乗り入れなどが挙げられるがいかがか。

【福祉部長】 県内で結婚相談事業を行うため県と社団法人茨城県労

働福祉協議会が共同事業として結婚相談事業を行っている、いばらき出会いサポートセンターに毎年負担金を支出し事業の支援をしている。また、出会いパーティーの開催を後援し、市広報紙への掲載によりPRしている。子育て支援については、保育に欠ける児童の円滑な受け入れ態勢の整備を促進し、待機児童ゼロを維持している。また、保育料の減免措置も行い、子育て家庭への負担軽減を図っている。休日保育についても1カ所で実施するなど子育て施策を実施している。

【企画部長】 まちおこしのためにロケ誘致による情報発信と特産品の開発に取り組んでいる。筑西きむちも完成し、販売開始した。市内外のイベントへの参加、あらゆる媒体を通じて情報発信したい。つくばエクスプレスの筑波山までの延長は、1都3県の共同事業であるので茨城県だけでは実現が難しいと思われる。また、常総線を運営している関東鉄道株式会社では、守谷駅に通勤者が直接マイ



カーで移動する傾向が強くなってきているため、常総線乗り入れの設備投資に見合った成果が上げられるかを含め、難しい課題であると考えているのでご理解願いたい。

防災対策について



【藤川議員】 昨年の3月11日以降、防災の大切さがよくわかってきた。本市では、自主防災組織が23

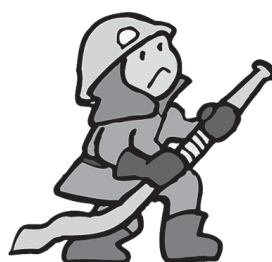
団体あり、地域防災を担っている。災害時にすぐに行政が対応することとはできないため、このように地域に密着した組織が大切になる。そのような地域のいろいろな人に入ってもらい、さらに市全体を網羅した防災協会が必要だと思いがいかがか。

【市長】 防災に関しては、自分たちの地域は自分たちで守るという自衛意識と、連帯感に基づいて構成される自主防災組織の結成を平成20年度から推進している。平常時は、防災知識の習得や啓発、地域内の安全点検や防災訓練を実施していただいている。災害が発生した場合、初動体制を整えていたなど地域防災のかなめとして重要な役割を担っていただいている。

る。将来的には協議会のような組織を立ち上げたいと考えているのでご理解いただきたい。

【藤川議員】 救急医療情報キットは冷蔵庫のドアポケットに入れられる大きさで、その中に病気や薬の情報を入れておける。冷蔵庫は災害時にもそのままの形で残りやすい。そのような救急医療情報キットを導入してほしいと思うがいかがか。

【福祉部長】 救急医療情報キットについては、来年度の予算を要求してまいりたい。



春季運動会開催について



【榎戸議員】 最近大変夏が暑い。小中学校の運動会で、今年たくさん

の児童生徒が倒れたようだ。ある社説に載っていたが日本人は

3カ月の暑さにしか耐えられない。ホルモンのバランスがくずれそう。運動会の日程は教育委員会の指導で全て決めるわけではないと思うが、毎年熱中症で倒れる子が多い現状を考えると、教育委員会の改善指導も必要ではないか。今の運動会実施の季節を変えて、春季運動会に変更できないか伺いたい。

【教育長】運動会の実施については、教育委員会が日程を決めているわけではない。各学校が実情に応じて決めている。例えば本市には地区によって小学校と地区の合同の運動会を実施しているところもある。それから学校行事との兼ね合いを考慮して期日を決めている状況がある。そういう中で、ご指摘のとおり、ここ二、三年は特に9月に猛暑日が多いということ、運動会を春に実施しようというような動きが出てきている。そこで来年の運動会の実施情報を集めてみた。来年の春に運動会を実施しようとして計画しているのは小学校3校と中学校2校で、小学校は大村小、古里小、小栗小。中学校は下館中、下館北中である。また、春季運動会を検討しているのは小学校が4校と中学校2校で、小学校は伊讚小、竹島小、五所小、関城

東小。中学校は下館西中、下館南中である。残りの小学校13校、中学校3校は例年どおり9月に実施する予定という状況である。



協和サッカー場の整備及び敷地内の利用促進について



【外山議員】なでしこジャパンの世界制覇や男子ワールドカップ予選での活躍が報じられ、サッカーは今や野球に次ぐ国民的スポーツとして人気を博している。協和地区には、県内唯一のナイター設備の整ったサッカー専用グラウンドがある。ここには、隣の野球場に比べて約3倍の利用者がいて、昨年度は2万9,240人も利用している。しかし、グラウンド整備が悪く、でこぼこの状態である。以前から開催されていた大会やイベントの会場が変更されてしまった。協和サッカー場は本市の財産であり、一日も早く整備すべきではな

いか。また、協和サッカー場には多目的グラウンドと芝生広場があり、お年寄りの方々がバードゴルフをして多くの利用者がいる。そこで正面に筑波山が見え風光明媚なこの地に、親子連れも集まれるように、日蔭となる藤棚等をつくってはどうか。

【市長】協和サッカー場の改修については、市民の皆様のニーズを十分に踏まえた上で、付属施設等を含めて総合的に判断をしていかなければならないと考えている。

【外山議員】協和サッカー場は観客席があつて人が集まり、活性化が図れる。子どもたちがががしいために整備して、イベント等が復活開催できるように、来年度の予算でお願いしたいかがか。

【市長】この整備については、担当も交えながら、総合的にしっかりと判断をしていきたい。



協和サッカー場

議会運営委員会視察研修報告

研修日 10月11日～12日

視察地 三重県鳥羽市

テーマ 議会改革について

三重県鳥羽市議会は、議会改革度が全国2位にランクされた全国有数の先進地です。

【改革の経緯】

- ・総合計画の市民アンケートに議会に関する項目を設けて実施した。
- ・基本条例の策定委員会と幹事会を組織し、計38回の会議を開いた。

【改革の内容】

- ・市民への「議会報告会」を市内全域、37会場で行っている。
- ・毎年、北海道ニセコ町長など著名人を招いて、市民も参加可能な講演会を開催している。
- ・ツイッター導入やユーストリームによるインターネット動画配信、ケーブルテレビによる放映など、先進的な議会広報をしている。

【研修を終えて】

市民を中心に据えた改革であり、今後、議会基本条例の策定に取り組みようとする本市議会にとって、たいへん有意義な研修を行えた。

